

【解題】「播州宍粟郡鉄山請負御用留」

笠井 今日子

はじめに

本史料は、兵庫県立歴史博物館が所蔵する古文書で、一七世紀半ばから一八世紀初頭にかけて作成された、播磨国宍粟郡のたたら製鉄業に関する文書が書き留められている簿冊である。

兵庫県立歴史博物館において、平成一六年（二〇〇四）一月一日から二月一五日にかけて開催された企画展「播磨北部の生業と武士」に出版され、一部の画像と積文が、企画展資料集二三（二〇〇四年発行）に掲載されているものの、全文は公表されていないため、ここに紹介する。

史料の形態は袋綴じの横半帳で、表表紙が欠損しているが、見返しと本文の間に剥落した題簽が挟み込まれており、「承応二巳歳ヨリ元禄十五午歳迄 鉄山御請負御用留」という外題を確認することができる。また、帙には「播州宍粟郡鉄山請負御用留」という表題が付されており、本稿ではこれを史料名称として採用した。

保存状態は概ね良好だが、一丁目から五丁目にかけて水損による上部の欠落がみられるほか、落丁と思われる部分が一箇

所、虫損により判読できない文字も僅かながら認められた。

史料の冒頭には「目録」が付記され、簿冊中の文書の分類が示されている。本文は、ここに掲げられた一八の分類ごとに、ほぼ年代順で記載されている。ただし、本文中に分類を示す見出しはなく、明確に区分することはできない。加えて巻末には、元禄一四年（一七〇一）以降に作成された文書が書き継がれており、完全に系統化された史料ではない。したがって本稿では、文書ごとに項目番号を付し、細目次を作成した。なお、解題において「」内に示す番号は、細目次の項目番号である。

次に、「目録」を参考して本文の構成を示す。適宜「目録」の分類を統合し、文書の記載順に並び替えた。

- (1) 鉄山請負証文・鉄山願書・鉄山入札など、鉄山の請負に関する申請書・請書等文書〔1〕21、55〕56、64、71〕72〕
- (2) 運上銀等の納入を担保するための家質及び田地質入に関する文書〔22〕29、57、59、66〕
- (3) 鉄山折紙・鉄山定書・鉄山覚書など、鉄山請負の許可に関する文書〔30〕38、58〕
- (4) 代官交代の際に発行された運上銀の皆済状〔39〕42〕
- (5) 鉄山用心筒に関する文書〔43〕
- (6) 鉄山定米・買米に関する損得考〔44〕45〕

(7) 元禄九年から宝永四年(一六九六〜一七〇七)にかけての鉄価格の変遷〔46〜48〕

(8) 宍粟郡代官所小物成銀・運上銀・鉄山払米代銀掛屋の請負証文〔49、67〕

(9) 鉄山入用米の不足・受領等に関する文書〔50〜53、68〕

(10) 木炭生産及び輸送にかかる経費の見積もり〔54〕

(11) 掛屋請負に関する家質及び田地質入証文〔60〜63〕

(12) 宍粟郡鉄山由緒口上書〔65〕

(13) 巡見使に提出した宍粟郡鉄山に関する書付〔69〜70〕

一、「播州宍粟郡鉄山請負御用留」の作成者

冒頭の「目録」と本文の構成から、本史料が後世において編纂されたことは明確である。編纂者を特定することはできないが、書き留められた文書の大半に「千草屋源右衛門」の名が表れることから、播磨国宍粟郡山崎町を拠点として製鉄業を営んだ、千草屋源右衛門家(山崎平瀬家)の人物によって編まれたものと考えられる。したがって内容も、宍粟郡のたたら製鉄業を網羅するものではなく、千草屋源右衛門家が関係するたたら製鉄業に限定される。その反面で、家業の経営に関する私的な文書を含んでおり興味深い。

史料中に登場する「千草屋源右衛門」は、三代にわたると推定する(表一)。外題には「承応二巳歳ヨリ元禄十五年歳迄」

(一六五三〜一七〇二)とあるが、鉄価格を列記した文書

〔47〕〔48〕に宝永四年(一七〇七)の記述があることから、

実際は、承応二年から宝永四年にかけて作成された文書が控えられている。この間に源右衛門を名乗っていたのが、山崎平瀬家の当主である、保古(延宝六年没)、正屋(元禄九年没)、信古(享保一五年没)であった。

保古の父は、千草から山崎に拠点を移し、製鉄業を本格的に営み始めた人物で、千草屋源右衛門家の初代にあたる。この初代源右衛門(清信)が宍粟郡の製鉄業に参入したのは、寛永一四年(一六三七)のことという〔65〕。山崎への移住に際しては、息子の保古を伴っていたといわれており、二代目源右衛門となる保古は、同家のたたら製鉄業に草創期から携わっていたと思われる。ちなみに、清信は万治二年(一六五九)に八六才で没したことが分かっており、製鉄業に参入した時期には六〇代に達していた。その後、千草屋源右衛門家によるたたら製鉄業の経営は、宝暦六年(一七五六)まで継続することとなる。よって本史料は、一〇〇年余り営まれた千草屋源右衛門家によるたたら製鉄業の、前半期に関する記録であるということができる。

またこの史料には、千草屋源右衛門以外に、千草屋という屋号を冠する人物が、宍粟郡においてたたら製鉄業を営むのに必要な、家質の家主や請人（保証人）として登場する。彼らは千草屋源右衛門家から独立し、山崎町や大坂に一家を構えた、分家の系統であると推測される（表1・図1）。

二、宍粟郡をめぐる所領の変遷と製鉄地帯の支配者

本史料に記載されている文書の多くは、たたら製鉄の事業者と、製鉄に必要な資源を領有・支配する山崎藩の役人や幕府の代官との間で交わされたものである。ここで、江戸時代における宍粟郡の支配の変遷を概説しておく。

慶長五年（一六〇〇）、池田輝政が姫路に入封し、播磨五二万石の領主となった。宍粟郡は姫路藩に編入されたが、慶長一八年（一六一三）に輝政が病没すると、佐用郡・赤穂郡とともに岡山藩池田忠継の所領に加えられた。元和元年（一六一五）、忠継が没し、弟の忠雄が跡目を継ぐ際、播磨国の三郡が忠雄の三人の弟に分け与えられ、宍粟郡三万八千石は池田輝澄の支配を受けることとなる。

宍粟郡の領主となった池田輝澄（松平石見守）は、山崎に本拠を置き、城下町を築いた。寛永八年（一六三一）には佐用郡二万五千石が加封され、領地は六万三千石となった。しかし、

御家騒動により領地が取り上げられ、寛永一七年（一六四〇）、宍粟・佐用両郡の六万石は松平康映に与えられることになる。この内、佐用郡の一万石は甥と弟に分与したため、康映の領地は五万石であった。康映による支配は、慶安二年（一六四九）、石見国浜田へ所替えとなって幕を閉じ、五万石の内、三万石が池田恒元（松平備後守）の領地に、二万石が幕府領になった。この時、宍粟郡北西部の製鉄地帯を含む千種川流域の諸村が幕府領に編入された。

池田氏による支配は、恒元・政周（松平豊前守）・恒行（数馬）の三代にわたった。恒元の統治は二三年に及んだが、政周の在任期間は六年、恒行に至っては僅か二年であった。延宝六年（一六七八）の恒行の急死により、一時的に岡山藩主池田綱政の管理下におかれた宍粟郡三万石であったが、延宝七年（一六七九）、約二万石は幕府領となり、須加村の東出石に陣屋が設けられて、代官・服部六左衛門の支配下に置かれた。揖保川とその支流・引原川流域の製鉄地帯は、ここから幕府領となる。残りの一万石余りは、本多忠英に転封され、以降明治に至るまで本多氏が領有した。

したがって、本史料中には、慶安二年以降、幕府領に編入された宍粟郡北西部を支配した代官、慶安二年から延宝六年まで、上記地域を除く宍粟郡を領有した池田氏とその家臣、延宝七年

以降、宍粟郡北東部を支配した代官と、南部を領有した本多氏が表れる（表2）。

宍粟郡を支配していた代官としては、服部六左衛門、後藤覺右衛門、平岡吉左衛門、山木与惣左衛門、遠藤新兵衛、森本惣兵衛、万年長十郎の七名が確認できた。先の五名は、宍粟郡北東部を支配した代官で、内三名が同時期に別子・備中吉岡銅山支配を担っていた（西沢淳男編『江戸幕府代官履歴辞典』岩田書院、二〇〇一年）。一方、宍粟郡北西部を支配した後の二名は、畿内と周辺の幕府領を支配する代官であった。

宍粟郡をめぐる支配関係は、その後さらに変化し、複雑になるため、文書の解説には注意を要する。

三、千草屋源右衛門家による鉄山経営

播磨国宍粟郡におけるたたら製鉄業は、藩や幕府が領有する公有林を期限付きで請け負い、その資源を利用して営まれていた。この製鉄業に用いる山を「鉄山」と称する。製鉄業者は、鉄山で生産した木炭と、鉄山に付属する「鉄砂山」で採取した砂鉄を使い、鉄山内に設けられた「鑪」という製錬工場で鉄を生産していたのである。したがって、たたら製鉄業という家業を継続するためには、鉄山を経営する必要があった。なお、鉄

山請け負いの手続きについては、大槻守氏による「鉄山一件」解題に詳しいため、そちらを参照されたい。

さて、本史料に記録されている鉄山の請負状況を一覧にした（表三）。これによると、当該期における千草屋源右衛門家の鉄山経営は、現宍粟市一宮町域にあたる揖保川上流域と、同波賀町域にあたる引原川流域を中心に行われていたことが分かる。後者において、一時他家による鉄山の請け負いがみられるものの、両地域を通じて常に一箇所以上の鉄山経営を継続していた。時には地元の百姓や山崎藩役人に推され、不利な条件下での鉄山経営を余儀なくされたこともあったようだが〔6〕、断絶なく鉄山を経営することは、千草屋源右衛門家において重視されていた。請負申請に関する文書には、その理由として、製鉄業に従事する「鉄山抱之者」の確保が挙げられている。一度中絶すると下財（鉄山労働者）が散じ、鉄山経営を再開することが困難になるのだという。そのため、米価が高騰する一方で鉄価格が下落し採算が合わない時期や、鉄山の資源が枯渇して鑪の操業が困難になった時期には、生産規模を縮小したり〔19〕、労働者を削減したり〔20〕、雑穀を用いて飯米を減らしたりしながら〔72〕、鉄山経営の継続を試みている。

鉄山資源枯渇の状況は、元禄期に深刻化したようであり、当該期の請負申請書類に炭木や砂鉄の不足を訴える文言が散見される。特に顕著だったのが現宍粟市千種町域にあたる宍粟郡北西

部で、木炭製造のための用木が調達できないため、鉄山を隣国に求める事態に陥った〔11〕と〔16〕。加えて元禄期は、鉄価格が落ち込んだ時期でもあった（図2）。本史料に残された文書には、鉄山経営の危機を乗り越えようとする、製鉄業者の工夫が表れている。

なお、本史料に控えられた文書は、鉄山経営に関するものが中心であるため、宍粟郡における製鉄業の実態、例えば、鉄山の景観や鑪で産出される製品の量、収支の状況などは、ほとんど知ることができない。このような中で、元禄一四年（一七〇一）に作成された巡見使への提出文書〔69〕は、砂鉄採取のための比重選鉱の方法が簡潔に表されているほか、「鉄山抱之者」の人数、年間産鉄量の概数、労働者の職能に応じた呼称や賃銀などが記されており、たたら製鉄業の具体像がうかがえる史料として貴重である。

おわりに

播磨国宍粟郡は、中国山地におけるたたら製鉄稼行地帯の東端であり、良質な砂鉄に恵まれた「千草鉄」「宍粟鉄」の産地であり、古代から近世まで連続と製鉄業が行われた地域である。そこでの製鉄業のあり方は以前より注目されてきたが、体系的な研究の素地となる史料が不足しており、いまだ基礎研究の段

階にある。このような現状において、本稿で紹介する「播州宍粟郡鉄山請負御用留」が、播磨国宍粟郡のたたら製鉄業史研究の基礎史料となり、研究の発展に資することができれば幸いである。

【参考文献】

- (1) 山崎町史編集委員会編『山崎町史』（山崎町、一九七七年）
- (2) 千種町史編纂委員会編『千種町史』（千種町、一九八三年）
- (3) 鳥羽弘毅『たたらと村―千草鉄とその周辺―』（千種町教育委員会、一九九七年）
- (4) 大阪歴史博物館編『特別展「なにわ人物誌」没後一〇〇年 最後の粹人 平瀬露香』（大阪歴史博物館、二〇〇八年）

表1 「播州宍粟郡鉄山請負御用留」に登場する屋号「千草屋」を冠する人物一覧

No.	名前	居所	記載年代	西暦	備考
1	源右衛門		明暦3年～寛文2年	1657～1662	保古(貞把)、延宝6年(1678)没
2	貞把		寛文2年	1662	保古(貞把)、延宝6年(1678)没
3	源右衛門	播州宍粟郡山崎町	延宝8年～元禄6年	1680～1693	正屋(源右衛門、仙西)、保古子、元禄9年(1696)没
4	仙西	播州宍粟郡山崎町	元禄6年～元禄9年	1693～1696	正屋(源右衛門、仙西)、保古子、元禄9年(1696)没
5	四郎右衛門	播州宍粟郡山崎町	元禄3年～元禄4年	1690～1691	信古(四郎右衛門、源右衛門)、正屋「世悻」、享保15年(1730)没
6	源右衛門	播州宍粟郡山崎町	元禄6年～元禄15	1693～1702	信古(四郎右衛門、源右衛門)、正屋「世悻」、享保15年(1730)没
7	三十郎	播州宍粟郡山崎町	元禄9年～元禄14年	1696～1701	信古子
8	宗左衛門	播州宍粟郡山崎町	貞享元年～貞享2年	1684～1685	山崎分家(貞把山崎分家)
9	与市	播州宍粟郡山崎町	貞享元年～貞享2年	1684～1685	
10	源助	大坂内淡路町壱丁目	元禄9年～元禄14年	1696～1701	大坂平瀬家(仙西分家)
11	又四郎	(大坂) 尼崎町二丁目	元禄9年～元禄14年	1696～1701	大坂平瀬家(仙西大坂分家)
12	新右衛門	(大坂) 天満旅籠町	元禄9年	1696	大坂平瀬家(貞把大坂分家)
13	嘉兵衛	(山崎町) 西新町			

参考文献：鳥羽弘毅『たたらと村一千草鉄とその周辺一』（千種町教育委員会、1997年）

大阪歴史博物館編『特別展「なにわ人物誌」没後100年 最後の粹人 平瀬露香』（大阪歴史博物館、2008年）

表2 「播州宍粟郡鉄山請負御用留」に登場する領主・代官等一覧

No.	職名等	名前	記載年代	西暦	備考
1	山崎藩主	松平備後守	承応2年～明暦3年	1653～1657	池田恒元/山崎藩主(慶安2年～寛文11年在任)[山]
2	山崎藩主	池田豊前守			池田政周/山崎藩主(寛文11年～延宝5年在任)[山]
3	山崎藩主	池田敦馬			池田恒行/山崎藩主(延宝5年～延宝6年在任)[山]
4	山崎藩主	本多肥後守	元禄6年～元禄11年	1693～1698	本多忠英/山崎藩主(延宝7年～享保3年在任)[山]
5	池田家家臣	桜井源兵衛	承応2年～明暦3年	1653～1657	山崎藩池田家家臣/延宝6年(1678)鉄砲役[山]
6	池田家家臣	洲本弥兵衛	承応2年	1653	山崎藩池田家家臣/池田恒元に仕官/延宝6年(1678)家老役[山]
7	池田家家臣	多賀長太夫	承応2年～寛文9年	1653～1669	山崎藩池田家家臣/池田恒元に仕官/延宝6年(1678)郡代役[山]
8	池田家家臣	完甘六右衛門	寛文9年	1669	山崎藩池田家家臣/池田恒元に仕官/延宝6年(1678)奉行役[山]
9	池田家家臣	大口十右衛門	寛文9年	1669	山崎藩池田家家臣/池田恒元に仕官/延宝6年(1678)裏判役・鉄砲頭[山]
10	代官	服部六左衛門	延宝8年～貞享3年	1680～1686	延宝7年9月29着任/延宝7年～貞享元年在任[山]
11	代官	後藤覚右衛門	貞享2年～元禄5年	1685～1692	伊予国川の江陣屋/別子・備中吉岡銅山支配(貞享2年～元禄5年在任)[代]
12	代官	平岡吉左衛門	元禄6年～元禄10年	1693～1697	伊予国川の江陣屋/別子・備中吉岡銅山支配(元禄5年～元禄9年在任)[代]
13	代官	山本与惣左衛門	元禄10年～元禄15年	1697～1702	元禄9年～元禄14年在任[代]
14	代官	遠藤新兵衛	元禄14年～元禄15年	1701～1702	伊予国川の江陣屋/別子・備中吉岡銅山支配(元禄13年～宝永5年在任)[代]
15	代官	森本惣兵衛	元禄4年	1691	五機内及び近江・丹波・播磨国支配(天和2年～元禄7年在任)[代]
16	代官	万年長十郎	元禄7年～元禄14年	1694～1701	大坂代官(元禄7年～正徳5年在任)[代]
17	代官	内山七兵衛	元禄13年～元禄14年	1700～1701	美作国古町陣屋(元禄11年～宝永5年在任)[代]
18	勘定奉行	久貝因幡守	元禄15年	1702	久貝正方/勘定奉行(元禄12年～宝永2年在任)[国]
19	勘定奉行	井戸对馬守	元禄15年	1702	井戸良弘/勘定奉行(元禄7年～元禄15年在任)[国]
20	勘定奉行	荻原近江守	元禄15年	1702	荻原重秀/勘定奉行(元禄9年～正徳2年在任)[国]
21	勘定奉行	戸川備前守	元禄15年	1702	戸川安広/勘定奉行(元禄12年～宝永5年在任)[国]

参考文献：[代] = 西沢淳男編『江戸幕府代官履歴辞典』（岩田書院、2001年）、[山] = 山崎町史編集委員会編『山崎町史』（山崎町、1977年）、[国] = 『国史大辞典』

注：詳細不明の者は省略した。No2「後藤覚右衛門」は、参考文献中の「後藤覚左衛門」に該当すると推測する。

表3 「播州宍粟郡鉄山請負御用留」に登場する鉄山一覧

No.	地域	地名	山名	鑪数、鑪規模 運上銀(枚/年)	請負期間 [年数]	請負人	関係文書〔項目〕
1	一宮町域	(河原田村)	手洗測鉄山	1箇所、四ツ吹 運上銀50枚	延宝2年9月～延宝3年8月 1674～1675 [1]	山崎町千草屋源右衛門	請負申請(6) その他文書(69)
2	一宮町域	(河原田村)	手洗測鉄山	1箇所、六ツ吹 運上銀75枚	延宝3年9月～延宝6年8月 1675～1678 [3]	山崎町千草屋源右衛門	請負申請(6) その他文書(69)
3	一宮町域	(公文村)	溝谷鉄山	六ツ吹 運上銀80枚	延宝5年9月～天和3年8月 1677～1683 [6]	(山崎町)千草屋源右衛門	請負申請(6) その他文書(69)
4	一宮町域	引原村	三喜安山(三久安山)		天和3年正月～天和3年8月 1683～1683	(山崎町)千草屋源右衛門	請負申請(7)
5	一宮町域	(公文村)	樺木原山	六ツ吹 運上銀112枚	天和3年9月～貞享5年8月 1683～1688 [5]		請負許可(30) その他文書(69)
6	一宮町域	公文村	奥樺木原鉄山	1箇所、六ツ吹 運上銀146枚	貞享5年9月～元禄6年8月 1688～1693 [5]	山崎町千草屋源右衛門	鉄山入札(10) 請負許可(33) その他文書(69)
7	一宮町域	河原田村	阿舎利鉄山	1箇所、六ツ吹 運上銀400枚	元禄6年9月～元禄11年8月 1693～1698 [5]	山崎町千草屋源右衛門	鉄山入札(17) 請負申請(19) 家質証文(22)(26) 請負許可(35) その他文書(43)(65)(69)
8	一宮町域	河原田村	手洗測鉄山	四ツ吹 運上銀60枚	元禄11年6月～元禄15年5月 1698～1702 [4]	山崎町千草屋源右衛門	請負申請(19)(72) 家質証文(28) 鉄山許可(37) その他文書(65)(69)
9	一宮町域	公文村 倉床村	手洗測鉄山 富士野山	2箇所 運上銀45枚	元禄15年6月～元禄16年5月 1702～1703 [1]	(山崎町)千草屋源右衛門	請負申請(72)
10	一宮町域	倉床村	富士野山	1箇所 運上銀45枚	元禄16年6月～宝永4年5月 1703～1707 [4]	(山崎町)千草屋源右衛門	請負申請(72)
11	波賀町域		広地山(広路山)	1箇所 運上銀40枚	承応2年8月～承応3年7月 1653～1654 [1]		鉄座請状(1) その他文書(3)
12	波賀町域		ししはい山(鹿早山)	1箇所	承応3年8月～明暦3年7月 1654～1657 [3]		その他文書(3)
13	波賀町域	(引原村)	まにか谷山(万ヶ谷山)	1箇所	明暦3年8月～万治3年7月 1657～1660 [3]		その他文書(3)
14	波賀町域	(引原村)	まにか谷(万ヶ谷)山 うつのみ山	2箇所	万治3年8月～寛文3年7月 1660～1663 [3]		その他文書(3)
15	波賀町域	野尻村	滝谷鉄山	1箇所 運上銀700枚	寛文9年8月～寛文12年7月 1669～1672 [3]	(山崎町)千草屋源右衛門	鉄山請状(4)
16	波賀町域	(引原村)	音水山	六ツ吹 運上銀312枚	延宝8年正月～貞享元年12月 1680～1684 [5]	江戸多賀井甫閑	その他文書(69)
17	波賀町域	原村	赤西鉄山	1箇所、六ツ吹 運上銀216枚	貞享2年正月～元禄2年12月 1685～1689 [5]	山崎町大津屋伝右衛門	鉄山入札(8) 請負許可(31) その他文書(9)(69)
18	波賀町域	原村	赤西鉄山	1箇所、六ツ吹 運上銀240枚	元禄3年正月～元禄7年12月 1690～1694 [5]		請負許可(34) その他文書(69)
19	波賀町域	原村	赤西鉄山	1箇所、六ツ吹 運上銀180枚	元禄8年正月～元禄12年12月 1695～1699 [5]	山崎町千草屋仙西	請負申請(18)(20) 家質証文(23)(24)(25) (27) 請負許可(36) その他文書(43)(65)(69)
20	波賀町域	引原村	音水鉄山	六ツ吹 運上銀105枚	元禄13年正月～宝永元年12月 1700～1704 [5]	山崎町千草屋源右衛門	請負申請(20)(71) 家質証文(29)(59)(66) 請負許可(38) その他文書(64)(69)
21	波賀町域	原村	鍵掛山	運上銀20枚	元禄14年正月～宝永2年12月 1701～1705 [5]	山崎町千草屋源右衛門	請負申請(21)

No.	地域	地名	山名	鐘数、鐘規模 運上銀(枚/年)	請負期間 [年数]	請負人	関係文書(項目)
22	千種町域	千草谷	東河内村・西河内村鉄山		貞享4年正月～元禄2年 1687～1689 [2]	大坂天野屋安之 (大坂) 舩屋源三郎	請負申請(11)
23	千種町域	千草谷	東河内村・西河内村鉄山		元禄2年～元禄5年正月 1689～1692 [3]	山崎町千草屋四郎右衛門	請負申請(11)
24	千種町域	千草谷	東河内村・西河内村鉄山		元禄5年正月～元禄5年3月 1692～1692	大坂内淡路町壱丁目亀屋 与左衛門	鉄砂山請書(12)
25	千種町域	千草谷	東河内村・西河内村・河呂村・ 岩野辺村・鷹巣村・黒土村・七 野村・室村・西山村・齋木村 10ヶ村の内鉄砂山	運上銀100枚	元禄5年正月～元禄10年正月 1692～1697 [5]	大坂内淡路町壱丁目亀屋 与左衛門	請負申請(11) 鉄砂山請書(13)(14)
26	千種町域	千草谷	東河内村・西河内村・河呂村・ 岩野辺村・鷹巣村・黒土村・七 野村・室村・西山村・齋木村 10ヶ村の内鉄砂山	運上銀100枚	元禄10年正月～元禄15年正月 1697～1702 [5]	大坂内淡路町壱丁目亀屋 与左衛門	請負申請(15)(64) 鉄砂山請書(16)
27	千種町域	千草谷	東河内村・西河内村・河呂村・ 岩野辺村・鷹巣村・黒土村・七 野村・室村・西山村・齋木村 10ヶ村の内鉄砂山	運上銀35枚	元禄15年正月～宝永4年正月 1702～1707 [5]	山崎町千草屋源右衛門	請負申請(64)
28	他領	美作国吉野郡影石村 美作国吉野郡大茅村 美作国吉野郡後山村	塩谷山 大茅山 後山	3箇所 運上銀200枚	元禄12年8月～元禄13年2月 1699～1700	作州吉野郡古町村仁兵衛 作州津山町塙屋小七郎 備後川北村十郎右衛門	請負申請(55)
29	他領	美作国吉野郡影石村 美作国吉野郡大茅村	塩谷山 大茅山	2箇所 運上銀134枚	元禄13年11月～宝永元年 1701～1704 [4]	山崎町伊右衛門	請負申請(55) 鉄山請書(56) その他文書(57)(68)
30	他領	美作国吉野郡後山村	後山	1箇所 運上銀66枚	宝永2年～宝永5年11月 1705～1708 [4]	三方村嘉兵衛	請負申請(55) 鉄山請書(56)

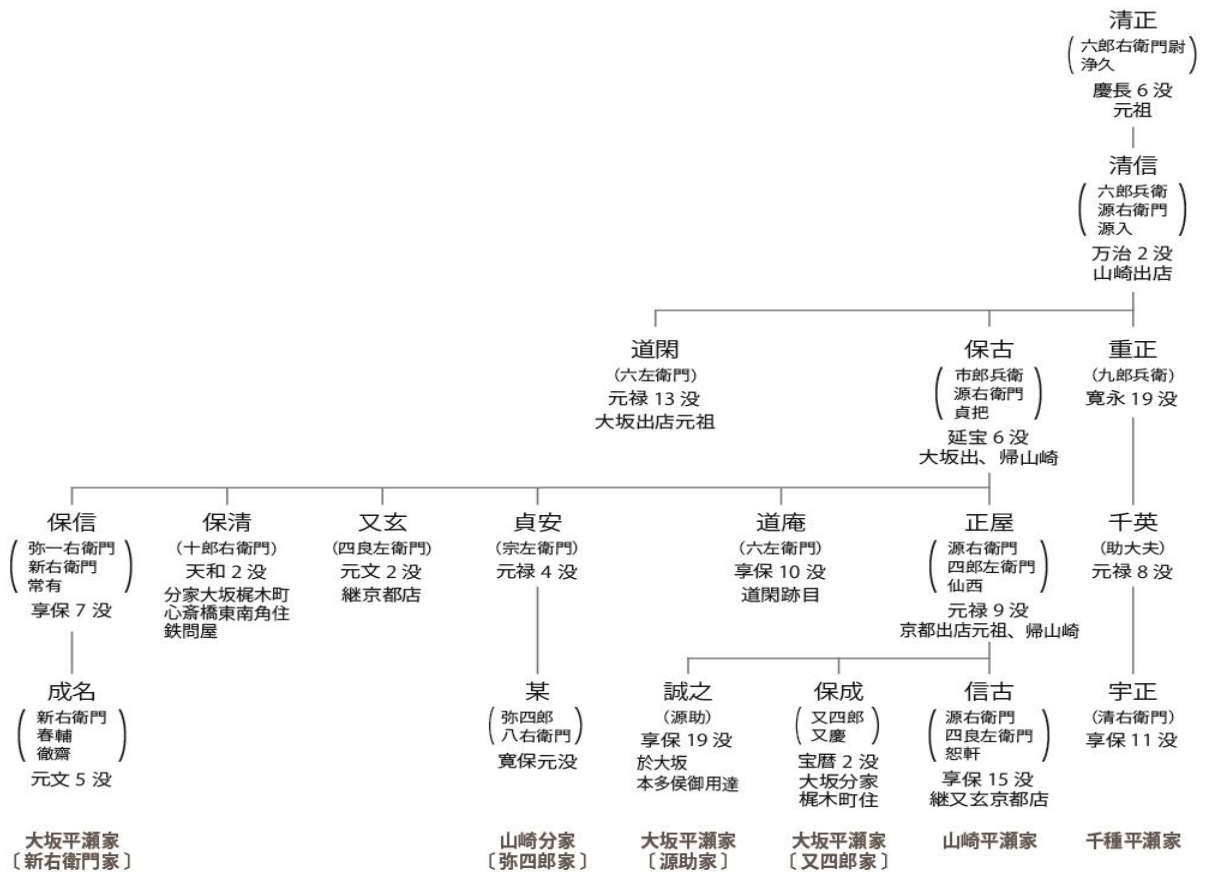


図 1 千草屋平瀬家略系図

(大阪歴史博物館編『特別展「なにわ人物誌」没後 100 年 最後の粋人 平瀬露香』90～91 頁の図より抜粋)

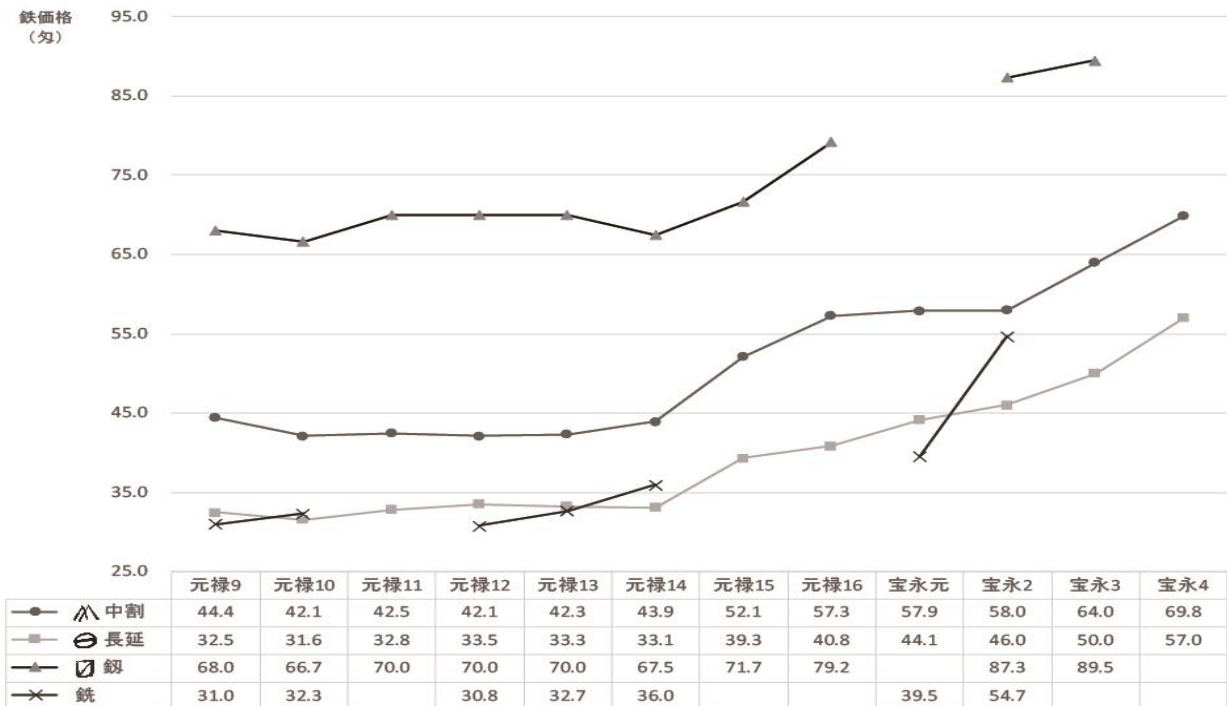


図 2 鉄価格の推移

出典：「播州宍粟郡鉄山請負御用留」[46] [47] [48]

凡例：上記史料から主要な商品を選出し、年間平均価格の推移を示した。

商標が多様な鍊鉄からは取引回数が多い「●中割」と「■長延」の 2 品を、釘からは最高品質と思われる「▲釘」を選択した。鉄は商標による区別はない。